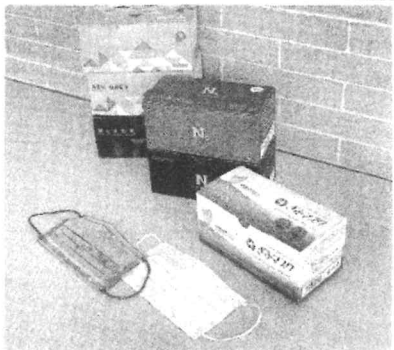


高付加価値マスクを継続投入

右から「ぎふマスク」「ナノソフトマスク」「カラーヘルマスク」



安田洋一社長

エコマスクや美容マスク

累計販売は300万枚突破 月産能力50万枚確保

同社は1973年設立で、繊維業と不動産業を手掛ける。繊維に関わっているとはいえマスク製造は未知の領域だったが、「付加価値を創造し、地域社会に貢献する」という企業理念から、1997年に「ぎふマスク」を発売した。現在は主に一般向けに販売している。

さらに、肌に優しいマスクを作れないか、という要望に応えて、ナノソフトマスクを投入した。素材は超極細のナノファイバーで織った軽くて柔らかい不織布。それだけに加工は困難を極めたが、機械の微調整

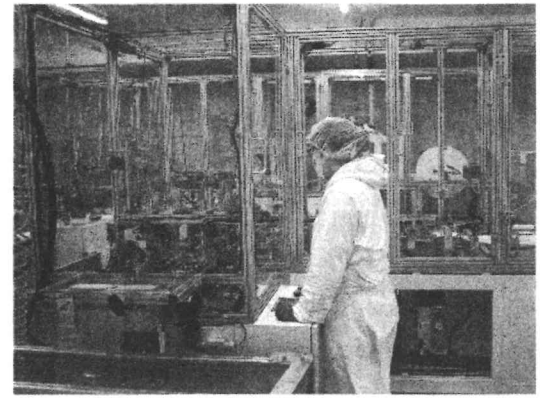
同社では現在、月間30万枚のマスクを製造しているが、生産能力は同50万枚を確保している。安田社長は「ごみ問題を解決できるようなマスクなどを、年内にも投入したい」と話している。繊維分野で培った技術力や対応力を新しいマスクの開発・製造に生かす考え

東洋産業

燃(ねん)系加工の東洋産業(本社岐阜県輪之内町大藪135、安田洋一社長、電話0584・69・4075)は、国産マスク事業が順調に推移している。2020年10月に医療従事者の意見を基に開発した「ぎふマスク」、同

11月に肌への優しさを追求した「ナノソフトマスク」を相次いで発売。累計販売300万枚を突破した。安田社長は「環境に優しいエコなマスクや美容に効果のあるマスクなど、今後も付加価値の高いマスクを開発していきたい」と話している。

(西濃・春田昭継)



月産50万枚の生産能力を確保している

に基つき、「安心・安全な国産マスクを医療従事者に届けたい」(安田社長)との思いから、輪之内町の自社工場にマスク製造に乗り出した。

ぎふマスクは3層構造の不織布製。岐阜県病院協会の会員病院の協力により、改良を重ね、商品コンセプトを完成させた。だが、製造は順風とはいかなかった。当初は耳ひもがうまく付かないなどトラブルが続出したという。しかし、思考錯誤の末、製造機械の特性を理解し、さまざまな改善を加えることで量産化にこぎ

を繰り返すなどして課題クリアした。価格は30枚り1650円(税別)。

アッシュグレー、ピンク、ブラックの3色をそろえ「カラーヘルマスク」も昨年11月から販売して



- 岐阜支社
岐阜市柳ヶ瀬通
1-12
岐阜中日ビル8階
電話
058(266)7576
FAX
058(262)6571
- 東濃支局
多治見市上野町
1-75
日映マンション
III602
電話、FAX兼用
0572(23)7812
- 西濃支局
大垣市室本町2の
39竹中ビル203号
電話、FAX兼用
0584(75)1289